



阿原山のレンゲツツジ（江刺区）

撮影：めぐみネット代表 高橋貞勝さん

不法投棄発生場所調査

資源循環・廃棄物部会は5月27日（火）に前沢区内3箇所（字大袋地内、字沼ノ沢・六本松地内、字鵜ノ木地内）の不法投棄発生場所調査を14人で行いました。



前記2箇所では、谷底に転がっている数々の家庭ごみや道端に捨てられている多数の空缶、林の奥にはボウリングの玉も捨てられていましたが、鵜ノ木地内は以前の撤去活動と土地所有者による環境整備で一つのごみも無い林となっており、「不法投棄しづらい環境づくり」の大切さを実感しました。

部会では、10月上旬に今回調査した発生場所のごみの撤去を行います。会員みなさんも参加してみませんか。





今年の目玉はこれだ！！

資源循環・廃棄物部会長 及川堅一

25年度途中より前部長の都合により、年度内のつもりで引き受けたいしましたが、今年度も引き続きとなりましたので会員皆様のご協力をお願いいたします。部会の事業としては前年度を踏襲いたしますが、今年の目玉としては、古着処分について勉強研究したいと思っています。部会の中でも古着の処分について検討をしておりますが、会員の内からも話がありますので、今後扱い業者、流通関係の視察等を実施いたしますので皆様の参加をお願いいたします。

部会の今年度の目標は「自然エネルギーや資源の有効活用、また放射能や食の安全を学ぶ」ことを掲げている。そのため、視察としては、2か所を考えており、太陽光発電施設と松川地熱発電所を予定しており、市民の皆さんに広く呼びかけたい。また学習面では、放射能や食の安全その他CO₂削減につながる「家庭エコ診断」なるものを検討している。この学習会も広く市民に参加を呼び掛けたいと考えている。

生活環境部会長 浪越和彦



自然環境部会長 鈴木輝男

奥州市の自然の素晴らしさはたくさんあり、四季を探訪したいものだと始めたのが、年4回の自然観察会であります。

今年の目玉は、冬の観察会で衣川区を予定しています。場所は桑畑地区の入口で北股川に沿った断崖に出来る氷柱です。1月の厳冬期のみに出現する氷の芸術で、みんなで鑑賞しようというものです。鑑賞するためには深雪の上を長靴に輪かんじきを付けて歩きます。今から寒い冬になることを期待してます。



代表 高橋貞勝

めぐみネットの小さな活動が、いつか市民ぐるみの大きな輪になるよう念願し、各部会の活動を強化し、会員の増加と活動の充実を図りたいと思います。

第7回「環境フォーラム in 水沢」は新しいアイデアを盛り込み、他団体との連携を深め、市民が環境保全活動に取り組むきっかけとなることを願っています。

冬期間には、環境保全活動団体の組織強化と活動活性化を図るため、交流会を開催します。会員の皆様には、各種事業にぜひ積極的に参加いただきますようお願いいたします。



そこから伝える活動に結び付けて行きたいと思っています。2年構想で、育てた「藍」で染めてみようの実施に向け、現在小沢宗さんの畑で「藍」を栽培中です。「藍」と一緒に、会員それぞれのやってみたい事、しっかり育てて行きたいなあ。

環境学習部会長 若生和江

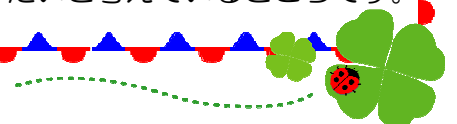


水環境と地球(2) 水の性質

大江 昌嗣

光合成は皆さんがよく知っているように、植物の葉の中で、葉緑素が働き空中から取り入れた炭酸ガスと太陽光を用いて澱粉の元になるブドウ糖をつくる反応です。これがなければ、人間も動物も生存できなくなります。ここでは炭酸ガスが取り入れられ、酸素が吐き出されますから、人間や動物の呼吸に特に大切な植物と言えるわけです。ただ忘れていることが一つありそうです。水です。光合成では、ブドウ糖の分子1個が作られるのに、「炭酸ガス分子6個と水分子12個」が使われます。こうして光の力を借りて、「ブドウ糖分子1個、酸素分子6個、そして水分子6個」が生まれます。結果として「水分子6個と炭酸ガス分子6個からブドウ糖分子1個が誕生」したことになります。従って、水がなければブドウ糖は決して生まれないのです。

人間は近代工場を作ったと威張りますが、その巧みな技は自然にはかないません。植物が光と電子を使い、水と炭酸ガスから澱粉の元を作る超精密工場。人はもっと謙虚に学ぶべきでしょう。昨年数回にわたって、小中学生と共に生物の不思議を学ぶ「ミクロ探検隊」を開催しました。初の試みでしたが、保護者も一緒になって川や森を駆け巡り、昆虫や生物の標本を集め、楽しい時を過ごしました。そこから植物の細胞など、水や光の中で動くものを探し顕微鏡下で詳しく見ることができました。子供たちにも大きな驚きがあり、「生物は一体何を考えているのか」「汚い水ときれいな水にいる生き物は違うことにびっくり」「小さな生き物が沢山いる！」「川や森の中で生物は生きて命をつなぐ」など、意味深い言葉を残してくれました。探検隊ではNPOの吉田智子さん他多くの方々に骨折りをいただき、また生物観察では岩谷堂高校山口成実先生のご専門の指導を頂き、各種資料も見せて頂いた。感謝申しあげたい。新年度は形を変え多くの方々の参加を頂き続けたいと考えているところです。





エネルギーから環境を考えると①・・・エネルギーって?・・・

文章担当：工藤建設(株) 花澤 淳

【大地】“エネルギーから環境を考える”って言うても、そもそも“エネルギー”って何なのか、改めて訊かれると難しいね。「ちょっとそこのエネルギー取って!」とか「今晚のエネルギーは何?」とか「僕のエネルギー知らない?」とか、そういう話はしないでしょう? めぐみちゃんは“エネルギー”って何だと思う?



【めぐみ】“エネルギー”って言ったら、まず思い付くのは電気でしょう?「節電して省エネしよう」ってよく言われるわよね。電気は、石油とか天然ガスといった化石燃料(=「一次エネルギー」)を燃やして作られているから、「二次エネルギー」って呼ばれているの。自然界に存在する形のままの一次エネルギーには、以前に話をした太陽光とか風とかの再生可能エネルギーもあるわね。エネルギーは一般的に“物体内部に蓄えられた、仕事をする能力”を意味するとされているけど、ここで“環境”という言葉との関連性を考えると、“エネルギー”とは私たちが生きていくために必要なエネルギー資源のことだと考えていいと思うわ。

それでね、大事なのは、今ここで出てきた“節電”は“二次エネルギーである電気を節約すること”であって、“一次エネルギーの消費量を減らすこと”を意味する“省エネ”とは同じじゃないってことなの。これについては次回以降に詳しく話すわね。



総会で真剣な質疑が交わされました

平成26年度定期総会が、委任状も含め79名の出席者で3月15日に開催されました。総体的には、会の発展や活動強化を願う立場から多くの質疑が交わされました。会計関係では、繰越金と活動のあり方や一般参加者からの参加費について、予算では、環境フォーラムと交流視察事業分を活動費から分離して事業費として修正しました。活動充実の方策では具体的な討論が行われました。従前から意見のあった事務局の民間移行についても検討することとしました。更には、環境フォーラムの開催に加え、関係団体等の交流や研修事業を計画しました。

引き続き役員の改選が行われ、新年度の活動の先頭に立つ役員が選出されました。

今回、初の試みとして、総会終了後に、本音を語り合おうとの趣旨で会費無料の「懇親会」も開催しました。

また、総会に先立ち、一般来場者にも開放して、正法寺住職伊藤大鑑氏(江刺区梁川出身)から「春は花 夏ほととぎす～」と題する特別講演が行われ、結びには「正法寺がああ場所にできたのは、山とカシカやイワナが棲むきれいな水があったから」と話されました。

会員紹介

会員No.個-67/自然環境部会、他3部会所属 小沢 ^{つかさ} 宗さん

昨年、定年退職し、江刺区愛宕に戻り、実家で農業を始めて二年目となります。映画「奇跡のリンゴ」で知られるようになった木村秋則さんの自然栽培方法で稲、ブルーベリー栽培を実践しております。

入会のきっかけは、定年退職後も、社会と何らかの関わり合いを持ちたいと思い、2年前に入会しました。退職前に勤めていた会社の業務としてISO-14001の取得・運用、環境報告会、こども自然塾(小学生と昆虫など生き物探し観察を行い、食物連鎖、水の循環を実際の場所で体験して子供時代から自然に関心を持ってもらう活動)の開催、植樹祭の参加などを行っており、環境保全に関心があったためです。

今、農作業をしながら見つけた生き物の生態を観察することが楽しみです。
(写真はヤゴ(上)とナツアカネ(下))



今年の環境フォーラムは11月8日(土)開催予定です。



タバコを喫う人はキレやすい！と言われると、身近に思いあたることはありませんか？ さて、果たしてそれは本当でしょうか？

ニコチンという薬物は、人体に入ると脳や副腎髄質にあるニコチン受容体を刺激します。するとアドレナリンやノルアドレナリンが分泌されて、血圧は高くなり、脈拍も増え、血管は収縮して細くなり、皮膚の温度は4～8度下がります。実はこれ、動物が敵に対して臨戦態勢をとった時の体の状態と同じなのです。つまり、目の前でタバコを喫っているその人は、こんな感じとも言えます⇒



また一方で、ニコチンは脳内にドーパミンという快感・覚醒物質を分泌させると同時に、ギャバ神経に作用することによって神経の興奮を静めます。これらさまざまな拮抗する作用によって、人体の自律神経系は非常に不安定になり、綱渡りのと言ったらいいかとてもバランスを崩しやすい状態になります。

また、常時ニコチンによってギャバ神経の興奮を抑えていると、ギャバ神経の受容体が増加して、ニコチンが切れるとかえって神経の興奮が起きやすくなったりもします。

つまりニコチンを常習していると、喫ってる時も喫わない時も、神経は常に不安定な状態におかれ、少しのストレスで過剰に興奮する、いわゆるキレやすい状態になるのです。結果として、自制心がなくなり衝動的な行動をとるようになります。

胎児や子どもは、大人に比べてニコチンに対する感受性が強く、体内での影響持続時間もずっと長いのです。だから少し煙を吸っただけで、神経は長い間ニコチンの作用を受け続けることになります。実際、周囲にタバコを喫う大人がいると、子どもはキレやすくなり、いじめや自殺に走りやすくなります。また将来抑制がきかない人になり、常習犯罪者になる確率が高くなるという調査結果も出ています。

現在増加している青少年の問題行動も、実は彼らの隠れタバコや、周りの大人たちの喫煙がその原因の一つになっているのかもしれない。

生活環境部会より（文責：建部 信）



運営会議（4～6月）からの報告

- ・総会で提案のあった、行事の参加者を募集する際、会員と非会員の区別をなくした方がいいとの意見について協議した結果、会費を払うメリットが少なくなるため会員減少につながり、組織運営に支障を来す恐れがあることから、現行どおり区分けすることとしました。
- ・視察事業について、一関地球温暖化対策地域協議会を視察先の候補としました。
- ・環境関連団体の交流事業について、開催時期をフォーラム終了後の冬場としました。
- ・副読本「奥州の自然」の編纂について、現時点で補助金等の財源がないこと、教員が多忙で協力体制を築けないことなどから、時間をかけて検討していくこととしました。

◇ つぶや記・あとな記 ◇

6月は「環境月間」で、特にも5日は「世界環境デー」でもありました。年々と悪化する環境を、私達や全ての生命体が健全に生活ができる良好な環境に変え、それを次世代へと引き継いでいくことが大変に重要な時期に差し掛かっているのではないのでしょうか？そんなことから、6月だけではなく、「毎月が環境月間」であって欲しい、と願わずには…。そして、私達の活動の中でも、例えば、毎月の運営会議の中で、先月の入会者は〇〇人、との状況であれば環境悪化へのホンの僅かではありますが抑止力に…。ただし、毎月に至っていないのが「会報」発行ではありますが…。

（安倍 進）

事務局 奥州市水沢区大手町一丁目1番地 奥州市役所市民環境部生活環境課内

電話 0197-24-2111 / ファックス 0197-51-2374 / メール seikatsu@city.oshu.iwate.jp

ホームページ <http://www.city.oshu.iwate.jp/htm/kankyuu/meguminet.html>